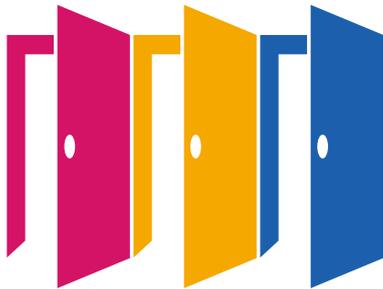


Rotary



白河西ロータリークラブ

SHIRAKAWA WEST ROTARY CLUB



ロータリーは機会の扉を開く

2020-21年度国際ロータリーテーマ

2020～2021年度クラブ目標

『35年目の再構築 ロータリーの源流へ』

会長 吉野敬之
幹事 堀田一彦

創立 1986年



第1641回例会

令和2年10月15日 (12:30～13:30)

○ソング

- 我等の生業

○スマイルBOX

- 吉野敬之会長（櫻岡さん、緑川さん、卓話有難うございました。今後の更なる御活躍を期待しております。冬に向かいインフルエンザ、コロナと何かと注意が必要な季節となります。皆様呉々も御自愛下さい。）
- 堀田一彦幹事（増子君ようこそ！櫻岡君、緑川君、卓話ありがとうございました。）
- 永野文雄会員（増子国安様、早い入会をお待ちしてます。櫻岡会員、緑川会員、卓話ありがとうございました。）



▶第1641回例会出席状況 (R2年10月15日)

Ⓐ 出席免除を受けていない正会員数	45名
Ⓑ 出席免除の適用正会員数	14名
Ⓓ 全正会員数	59名
Ⓒ ①の出席者数	26名
Ⓔ ①のメイクアップ者数	0名
Ⓔ ②の出席者数	10名
Ⓖ = ③ + ④ + ⑤ (メイクアップ補填後の出席会員数)	36名
Ⓕ = ⑥ - (⑦ - ⑧)	55
Ⓖ = ③ / ⑥ × 100 (例会出席率)	65.4%

▶例会日：第1・第3木曜日(12:30) その他の木曜日(18:30～19:30)

▶例会場：白河市新白河駅前 東京第一ホテル新白河

▶事務局：〒961-0957 福島県白河市道場小路96-5 (白河商工会議所内) ☎23-3101 FAX22-1300

本日のプログラム

■会長の時間

吉野敬之会長

会長の吉野敬之でございます。皆さん、本日も例会に多数ご出席いただきましてありがとうございます。昨日は非常に暖かい日でございます、今日はこう寒いと寒暖の差が非常に激しくなって徐々に冬に向かっていくんだなという、体調管理が非常に難しい季節になってまいりました。お体のほう、くれぐれもご自愛のほどお願いいたします。先程、ちょっとメンバーの中からもお話が若干あったんですが、実は白河で4例目から6例目になるコロナ感染者が発生をいたしました。その感染者の一人がイオン白河西郷店のマクドナルドの従業員さんということで、わたくしイオンの中で同友店の会長をやってる絡みで昨日ご相談いただきました。その感染者はその女性の方の感染源が旦那様から感染されたというふうに言われています。それで、奥様のほうが感染しましてPCR検査を受けたところご子息も感染してるということで、一応今のところ3名の感染が確定したと。さらに、濃厚接触者の特定ということで今特定並びに特定が済んだ方は順次PCR検査を受けていくというふうな方向性であるということまでにはわたくしはお聞きしております。それ以上は本日3時に市より公式発表があるそうですので、その時に新たな情報等があるかというふうには思っております。白河では8月のお盆に発生者が3名あって以来感染者は発生しておらず、もちろん毎日感染者数の報告等は報道されておりますので認識はしております。でも、実際現実味が薄れるといいますか身近なところで発生がない状況ですと、若干遠いお話のような感覚も私自身もあって、皆さんもそういう感覚はお持ちであったかなと思うんですが、やはりこうして発生してみますと、現実に身近にあるのだなというふうに改めて認識をした次第でございます。白河では思いやり条例というものが制定されて、これはコロナを中心とした様々な偏見に対する差別や不当な差別等をさせないというふうなことを目的として制定されたとお聞きしております。今回、罹患された方もやはり心通してしまして一体どこの誰なんだと、当然身近な人だったらどうしようという思いがやはりそういったことを知りたいという気持ちにさせるのは、これは人間ですから致し方ないと思うのですが、やはりこういう時代、明日は我が身ではないですけどもコロナ感染者という方達が身近に存在していることは決して不思議なことでもない時代になっております。自分がいつ感染するかもわからないですし、感染した方が決して悪意があったり何か悪い事をして感染したということでは

はないのですが、やはりどうしてもそういう好奇の目にさらされるというのが現実として起こりえるかなというふうに思いますが、本当に思いやり条例が制定されたように、ご本人たちには悪意があるわけではございませんので、やはりそういったことを私たちがしっかり認識をして、そのようなことにならないようにリーダーシップを努めていければいいなというふうに今日思った次第でございます。ちなみに、イオンのほうでは昨日からマクドナルドのほうは閉店いたしました、昨日今日と二日間かけて消毒をしているということでございます。今後、濃厚接触者のPCR検査が済んで陽性患者が出ない陰性の方だけで運営ができる場合には運営はするという方向性だと聞いておりますが、イオン全体としましては必要箇所を全部消毒いたしまして、さらに感染症対策、予防対策をしっかりとしておりますので、皆様安心してイオンのほうにはお越しただいただければと思います。本日は、新入会員2名の方、櫻岡さんと緑川さんの素晴らしい卓話をお聞きできるということで、非常に楽しみにしております。本当は1分程で終わらせて、沢山の時間をお渡ししたいなと思っていたんですが、ちょっと今日トピックスがコロナ感染者ということでしたので若干長くなりましたけど、お二人のお話を非常に楽しみにしております。ということで、今日もよろしくお願いいたします。



■幹事報告

堀田一彦幹事

- 国際ロータリー第2530地区2019-20年度ガバナー 芳賀裕、地区資金委員長 鍛冶輝雄：2019-20年度地区会計報告送付のお知らせ
- (公財)ロータリー米山記念奨学会：ハイライトよねやま247
- ガバナー事務所：合同セミナー御礼および資料送付について
- (公財)ロータリー米山記念奨学会：【奨学生レポート】受付完了のお知らせ

■委員会報告

○ゴルフ愛好会

運天直人会長



皆さん、こんにちは。ゴルフ愛好会からのご報告です。来週の22日、J・C・Y・E・G・西ロータリーの恒例の交流コンペを開催いたします。今、現時点で10名の参加をいただいておりますが、若干定員に空きがありますので奮ってご参加いただけますようよろしくお願いいたします。

■本日のプログラム

会員卓話

○「コロナ禍における製造現場の変化と今後」

株式会社サクラテック 代表取締役 櫻岡敏之会員



皆様、こんにちは。改めて、櫻岡敏之でございます。どうぞよろしくお願いいたします。ロータリーで会員卓話をやらせていただくのは実は2回目でございます。6年くらい前に入会した時に新入会員卓話ということでお話させていただいた以来となります。今日のお題は齋藤プログラム委員長のほうから、「コロナ禍における製造現場の変化と今後」ということでお話をいただいておりますので、会社の紹介も交えながらコロナの中でどんなことをやっているか、これからどうなっていくのかということをお話させていただければというふうに思います。わたくしは会社を二つやっております。まず一つが「サクラテック」という工業関係の仕事をやっております。場所は、本社が白河の中町にありまして、工場が白坂地区に2工場構えて、東京の神田のほうに営業所を構えております。従業員は今62名ほどで、金属の部品加工をやっております。どんな内容かといいますとわかりやすくなかなか伝えにくいんですが、半導体関連の製造装置に使う部品ですとか、あるいは皆さんがお使いになっているiPhoneとか携帯関係の基地局関係の電波を発する、あるいは電波を受ける局の中に入る部品ですとか、いわゆる体でいうと内蔵の部分を作っている会社でございます。業界的には、通信業か、半導体業界、医療業界関係を中心にやらせていただいております。機械加工のほうは24時間体制でものを作っている会社でございます。コロナの状況ですけれども、簡単にいうと大きな仕事に対する影響は今のところございません。どちらかというところ米中問題ですか、ファーウェイの問題ですとか、その辺の問題が最近になって少し影響が出始まってくるかなというくらいで、大きな仕事の落ち込みは正直ございません。ただ、ネックになっているのはお客様が設計担当の方が東京の方が多いためテレワーク

在宅勤務されているものから、なかなか密な連絡が取れてないですとか、訪問営業ができないですとか、そういった支障はかなり出ているような状況です。もちろん、社内的には受け付けの飛沫防止を付けたりですとか、検温したりとかマスクは着用してくれとか、そういう政府が進めているガイドラインのところは徹底してやっているつもりですけども、どこまでやったらいいかというのは正直悩みでございまして、「サクラテック」のほうは個人でやるのが多いものから、密になって仕事するという環境じゃないものから、濃厚接触者が出た場合にどの辺まで濃厚接触者に該当するのかなというのは保健所の見解を聞かないとわからないものから、あまり強くはやるなとかいうことは実は言っておりません。ただ、会議ですとか東京の営業所との販売会議とかは全部オンラインでやっておりますし、この期にVTNというのを使って製造以外の人間は在宅勤務ができるような構築をインフラを整えてあるというような状況でございます。続いて「桜乳業」のほうになりますけれども、「桜乳業」は食品を作っております。簡単にいうと農産物の加工です。わかりやすくいうと今でいうと、けんちん豚汁の具材ですとか、筑前煮の具材ですとか、あるいは炊き込みご飯の具材ですとか、これからは甘栗ですね。安部先生が大好きな甘栗をこれから作る、毎年、甘栗まだかと言われるものから、11月になったらお持ちしますのでお待ちください。こちらは白河に1工場、泉崎村に1工場、あと栃木県的那珂川に1工場ございまして、営業は九州地区に2名駐在、あと北海道は白河からやっておるんですけども、食品はもと口に入るものから工場内の消毒ですとか手洗いすとかマスク着用というのをごく当たり前に行っておりますし、検温についてもこれはコロナだからやっているわけじゃなくて、常に日常の流れでそちらをやらせていただいているものから、制限しているのは特に来客ですね。あとは、工場内の搬入についてはこれは一切3月以降は受け付けておりません。ただ、機械の故障ですとかメンテの場合については、きちんと検温して記録を残して何時に入って何時に出たということは記録を残しながら対応はさせていただいているというような状況です。食品のほうは、今まで皆さんスーパーに行くとかマネキンさんが食べてくださいとやってたと思うんですけど、あれが全くできない状況なんです。大体、うちの場合ですと年末になりますと甘栗を各スーパーさんに、うちの社員が行ってお店で販売するというのがルーティンだったんですけど、おそらく今年は全部やらないでくれというような状況です。年末になると甘栗なんかを詰め放題という企画とかやるんですけど、そういうのも一切できないということ

で、売り上げるには今後どうなるかなという不安はありますけども、うちの商品は常温で置ける商品なものですから、冷蔵庫に入れなくても日持ちがしますよという商品なものですから、今年の4月なんかは品薄になるくらい物が販売売上げが良かったという、こういう中でも少し追い風が吹いた時期もございました。これからどうしていくかというのはすごく難しいところでして、両方、食品にしても工業にしても出た場合のことを想定はなかなかしづらい部分はあって、「桜乳業」の場合はメーカーなものですから大体1か月分の在庫を持ちながら生産をしているものですから、2週間くらい止まっても何とか対応できるかなと思うんですけども、「サクラテック」の場合は完全なるお客さんの受注生産ということで、工場が止まってしまうということ。その辺も意識して、実はこの近い所で2つの工場に分けてるのはコロナだからじゃないんですけども、火事があったとか何かあった時に二つの工場を離しておけばどっちは生きてるということで、実は工場あえて分けてるのもあるんですけども、その工場がどちらかが出れば、どちらかが休んでどちらかが生産をするようにはしたいと思ってますけども、濃厚接触者という定義がまだまだわからないところがあるものですから、まずは発生させないようなことを社員にもお願いをしながらしてるということです。不要不急の県外への外出についても規制はしてませんけれども、極力やめていただきたいということで、その後の行動についてはあえて記録をとったりとかそこまではしておりません。いずれにしても、これから先もいろんな問題と向き合いながらやっていかなきゃいけないと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。この後は、緑川会員にお願ひしたいと思ひます。ご清聴ありがとうございます。

○「コロナ禍での物流の変化と今後」

小田川運輸有限会社 代表取締役 緑川直人会員



皆さん、改めましてこんにちは。新入会員の緑川でございます。「小田川運輸有限会社」場所がご存じないかと思われませんが、国道4号線を北上していただいて白河市のはずれ、泉崎の手前でございますので、何かご用の際にはお寄りください。今回、この「コロナ禍での物流の変化と今後」というお題をいただきましたので、つまらない話にはなってしまうんですがちょっと数字が多いお話をさせていただきます。まず、福島県のトラック屋さん、運送屋さんの現況という形で大まかな説明をさせていただくと、福島県内の一般の貨物自動車の輸送事業といわれる運送業者の数は1275社ございまして、車両数は

24892台、これが福島県内で走り回っているという状況になっております。隣の宮城県は事業者数が1182社、車両者数が23551台ですので、福島県のほうが若干多いことになっております。小計が全然違うのでこちらのほうとこちらの単純比較ができませんが、単純な数字、件数でいうとこういう比較になっております。その内訳なんですけど、この運送事業者の地域別の数がわたくし共がいますこの県南地域には147社ありまして、県中地域、郡山含む266社、福島市のほうの県北地区の171社ついで3番目の規模になっております。その各事業者で保有している車両数、その会社の規模にほぼイコールになってくると思うんですけども、大体5台まで持っている運送事業者が23パーセント、10台までの事業者数が27パーセントになっておりまして、大体全体の50パーセントが家族経営に近い形をとっている業種でございます。ちなみに100台まで保有しているのが全体の6パーセント。200台までになると1パーセントということになりまして、うちが105台保有してますのでぎりぎりどっちかこっちゃんに入る規模でやらせていただいております。福島県はご存じだと思ひますが、宮城県と首都圏のほぼ中間に位置しておりますので、工場圏の生産の拠点として大変よろしい好立地となっております。工業製品、農産品とバランスがとれている経済地域だとも考えております。特に白河市、この県南地域という部分は関東にすごく近くて、高速道路のインターチェンジも、白河、白河中央、矢吹と3か所を抱えているので、交通の利便性が大変よろしいんですね。ですから、この物流の拠点としても素晴らしい条件が整っている地域となっております。ですから、今まで須賀川とか郡山あちらのほうでやっている会社さんが近年こちらの矢吹地区とかに進出してきている例が大変増えております。これが大体の運送業の数字的な現況となりますが、いよいよ本題というかお題となっております「コロナ下での物流の変化と今後」ということで、ちょっと考えてきた部分でお話させていただきますと、これもちょっと数字上データという部分になってしまうんですけども、わたくし共の関連しています全日本トラック協会という団体がこのコロナ真っ最中というか、現在に至るまで全国の運送業者さんから情報を仕入れた部分なんですけど、まず運送収入という部分で全国の平均1社あたりの金額になってくるんですけども、今年の1月が前年比と比べてマイナス490万円、大体5%くらいマイナス。その後は、だんだん毎月毎月コロナが広がっていくと共に減少を続けていって5月がマイナス2,870万円。これは1社あたりの平均ですけども、すごい金額だと思ひんですけども、前年比で-15%ここまで落ち込んで、その後はちょっとづつ戻して9月の段階で862万円

減、-4%まで戻しつつあるということは適切かどうか分からないんですけども、そこまで戻ってきてはおります。それらの苦しい状況が続いているのが今でございます。次、今度荷主様、私共の積まさせていただいている荷主様、こちらから本来出るのであるという想定の中の荷物がやっぱりこういう状況下でキャンセルになった。キャンセルになった金額の平均も出てきてまして、こちらが1月の段階で810万円キャンセルがあったと。それが毎月やはりコロナの進行とイコールにはなってきたんでしょうけども毎月増えていって3月の時点で1,681万円、これがキャンセルされてしまった。私共、荷物積んで運んで届けてというものが成立して初めてお金をいただくもんなんですけども、そのために設備をしております、車を揃えております、人も揃えておりますというのが、まるっきりこの数字分へこんでいくと。私達はものを作りだしている生み出している立場ではございませんので、荷物がなくなるとなってキャンセルくれば、そのままダイレクトにうちのほうにこの金額というものが減っていってしまう。これもピークが3月の1,681万ですけども、9月は819万円の減までは戻つつあります。資金繰りに関してこれも出てきているんですけども、これはざっくりした質問という内容なんですけども、現在の状況が続いた場合に最悪の場合6か月以上1年未満で経営が保てなくなる可能性があるかと回答した業者が全国で3割ほど。3か月以内が3%、6か月以内の9%と合わせると4割以上の運送事業者がまずいなと。大変な危機感を持って感じております。それに合わせて国の政策という形で、いろんなものを打ち出させていただいて実施していただいている部分ですけども、持続化給付金、信用保証付き融資など活用している、もしくは活用を検討している事業所はおおよそ4割。残り6割の業者さんは、手を付けていない手を付けられないという状況になっております。雇用調整助成金、こちらに関しては7月の時点で4割程度の事業者が申請しております。これが大体その数字的なものになって、ここからが弊社の状況としてのお話になってくるんですけども、まず新型コロナという言葉が出てきて増えてきて、最初その情報も何も何が悪いのやら、そういう状況下から始まったわけですけども、やはりお客様のほうは納品先、積込先含めて必ずマスクをしてきてねと。それはそうですね。売ってない、どこに行っても市場に売っていない。お客様のほうでちょっと融通していただけますか。いや、うちもない。だけど、してきてください。そういうやり取りがやっぱり数件ありまして、なんやかんや、そっちこっちからかき集めてきましてマスクが18300枚、アルコール消毒が100リットル以上ですかね。これを何とかかき集めて全ドライバーに配布

させていただきました。やはり、ないから値段が上がるという状況が大変続きまして、高い時にはマスクは1枚当たり70円、だんだん落ちてきて38円位まで落ちてきたんですけど、その頃買っちゃったものですからまだ在庫として多少残っておりますが、あとはドライバーに日々30枚くらい単位で配らせていただいております。そして、アルコール消毒に関しても1リットル当たり1,300円位の価格帯で出回っていたんですけど、それでも背に腹は代えられないと。これを仕入れましてドライバーに容器を付けて、それを全ドライバーと全従業員に配らせていただいて、せめてマスク、手洗い、アルコール消毒だけは徹底しようと、そういう働きというか動きをやってまいりました。ですから、この新型コロナ対策としては、そういったマスク、アルコール、電子体温計などはもともとあったんですが数を増やそうということで、非接触型というものを準備して大体100万円を超してしまった経費がかかってしまいました。その当時、福島県内ではなかったんですけども情報がいろいろ錯綜しまして、運送事業者は全国走り回っているよねと。であれば、そのリスクが高い地域も通過もしくは立ち寄りしてますよね。だったら、その親御さんは行事に出ないでくださいという小学校があったと。私も子を持つ親ですから、そういう話を聞いて心を痛めてましたが、幸いというかおかげさまでこの地域ではそういった言葉は聞かれず今に至っております。弊社のほうも今のところ感染者もなく、感染しないどころか今まで悩んでいたインフルエンザが全くなかったことによって業務がスムーズに流れているということもあります。仕事の内容として、その荷物の量の部分なんですけども、うちでやらせていただいている飲食店向けの食料品の配送、あと自動車関連、自動車部品とか、そちらやらせていただいているんですけども、そちらは確かに減収いたしました。その代わりに去年の台風、大きな被害出しましたが、あちらの河川の復旧工事、あとは震災後まだ続いている復旧工事というのがまだ残ってまして、その辺に関わる建築の資材こちらの運びのほうが増えまして、ですからプラマイにはなりませんけど何とかマイナスを下げることができたという状況が今でございます。それが今現時点、9月に入っております。それが今後含めて夕べもその担当者さん、こちら来ていただいて夜9時から会議というのがありまして話したんですけども、まあ100にはなんないよねと。今後、何が終息になるのかというのはわからないけども、いずれコロナが収まったという形になった時100にはならないだろうと。それがどこの次元の数字なのかかわからない。それに向けて私たちは頑張っていく。私達もそれに対

して協力をしていくということをお話させていただいたんですけども、確かに誰も正解がない状況で続いております。先程もちよっと言ったんですけど、私共も荷物あって初めて売上げがたつ職業です。工場さんが生産をストップする、減らすとなるとそのままうちの仕事がありません。この車で他の物を運びますかといったら、特殊な車両だったりしますので替えが効かないんですよ。そうすると、その工場さん休んだ場合にはそのドライバーも休みになる。そうなった場合のカバーとして、うちとしてはやはり雇用調整助成金、そちらの申請させていただいてそのドライバーに対して手当を付ける。それで収入はほぼ変わらない状況でやっていただいております。これはわたくしの個人的な見解として弊害がありまして、会社としては何でもかんでも仕事を見つけてドライバーに割り振りたい。でも、ドライバーとしては休んで助成金で給料同じくらい貰えるんだったら休んだほうがいいんじゃないか。確かになと思うんですけども、それは正常な経済活動じゃないと思うので、その辺は働いてなんぼですよ。あくまで基本的なものしかカバーできませんよという会話するんですけども、人間一回楽を覚えてしまうと何か用事があるんです。それは用事だよな、そのやり取りというのが何度か続いています。確かにこの制度で大変何とか息は継げたという形がございます。あとは、銀行さんからの借り入れですか、信用保証付き融資なんていうのも一応活用させていただいてる中で、まず使わなきゃタダだろうと。利子何もかかりませんよと。3年以内に返せば何もかかりませんよ。だったら手元に貯めておこうというのが良いか悪いのかわかりませんが、今後先が見えない状況で判断させていただいてその辺は活用させていただいております。ただ、まだ手は付けておりません。今後、わたくしなりの考えなのでこれは良いか悪いかわかりませんが、物流全体として捉えた場合に、これは私の考えじゃなくて現実の話ですけども、全体の傾向として現在コロナの影響としては大きく二つに分かれております。まずその片方、一つ目が個人向けの貨物を扱っている宅急便とか宅配便と言われる部分の物流業者さん。こちらのほうは大変伸びております。そしてもう一方、企業向けさんの貨物を扱っている、弊社もその中に入りますけども、あくまで企業さん向けの貨物を扱っている物流業者さんというのはなかなか苦戦をしていると。その要因としては大体皆さん想像はつくと思うんですが、コロナで不要な外出を控えてくださいと。そして、政府からはなるべく買い物、ネットで買い物してくださいという新聞に載るくらいの報道をされている。それが加速していったと。でも、その宅急便さんと話していると何を言っている

んだと。その頃には、もうネット販売事情も上がっていて人が足りない。人不足だ。荷物はあるけど配れないという状況もあった中で、これで政府がネットで買ってね、出かけないでねと言ったもんですから、その分がプラスになって確かに売上げ、荷扱い量は増えました。けども、その人たちの負担、疲労というか、人的負担とかは随分上がったようです。私共の会社でやらせていた外食、自動車の部分関係、こちらのほうは本当に先が見えない形になっておりますけど、これが私達共だけの傾向ではなくて、このデータですと個人向けの宅急便といわれる物流業者の代表である誰でも知っているクロネコヤマトの宅急便、あそこの8月の宅急便の取り扱いが前年対比で14%増えたそうです。そして、企業向けの物流業者、これも皆さんご存じだと思うんですが日本通運、こちら大体世界を相手にして活躍されてる企業さんですけども、こちらは企業宛てが多いんですね。企業宛てが多い日本通運さんが、8月は国内の売上高だけで6%落としてます。その前の7月だと9.5%下げている。大きなこの二つ、二極化というか明暗が分かれたという形になりますので、私共の規模の運送事業者もどちらがボリュームがあるんだということで、大体これにならった数字の落ち込みになってると思います。今後、このコロナというのがどのタイミングで終息するのかというのが不明ではあると思います。今日も白河でお話先程もありましたけども、着実に増えるだろうしこれが減っていくということはないと思うんですね。あと、その治療法なりワクチンなり開発されて消していく形になるだけであって、感染者数もどんどん増えていくであろうと思いますし、どこで終息するかわからないですけど終息という形をとった時に、だったらその前の段階まで戻るのかというのは先程も言ったけど戻らないでしょうと。だったら、その戻らないところを天井として考えての営業活動を今後していくのか。それとも、いや戻るだろう、それ以上いこうという考えのもとに営業活動していくかとかで、大きく話が変わってきちゃうと思います。ですから、うちはまだどちらにしようかなと慎重に見ている状況でございます。どちらに転んだとしても、やっぱり一日も早くコロナが終息していただくことを祈ることしかできないですから、皆さんでお祈りいたしましょう。お聞き苦しい点が多々あったと思いますが、以上で発表を終わらせていただきます。ありがとうございました。